

# 泉大津市・アビリティ実証都市研究会\_\_キックオフセミナー

## 1. 実施概要

アビリティ実証都市研究会のキックオフセミナーとして、国内外のアビリティ向上に結び付く研究や療法などの研究機関・民間事業者・実践者及び、事業支援や国際連携支援を行う国・関連団体による講演・事業報告を実施した。

## 2. 実施日程及び場所

日程:平成 31 年 1 月 15 日(火) 13:00～17:10

場所:テクスピア大阪 4 階 402 会議室

## 3. キックオフセミナーの主なプログラム

- ・ 泉大津市のアビリティ実証都市としての取組み
- ・ アビリティ関連分野の研究について話題提供・基調講演
- ・ 報告リレープレゼンテーション(13 団体)

## 4. 第 1 部 基調講演 テーマ:「食の機能と健康アビリティ」

### (1) ご挨拶 「アビリティ実証都市の取組み」

南出 賢一 氏 (泉大津市長)

- ・ 泉大津市では、「本来、人が持つ機能を最大限引き出す取組み」であるブレインブーストや、「身体の機能を取り戻す取組み」であるあしゆびプロジェクトなどの取組みを実施している。
- ・ アビリティの回復、維持、向上、改善の取組みを泉大津市で実証し、国際的に展開することを目指したい。

### (2) 話題提供 「健康、介護関連ロボットの国内外動向と健康ロボット研究について」

本田 幸夫 氏 (大阪工業大学 R&D 工学部ロボット工学科アクチュエータ研究室 教授)

- ・ 国民全員が健康で幸せを実感できる超高齢社会の実現に向けて、最先端ロボットテクノロジーによるライフイノベーションの創出が必要である。
- ・ ロボットを現状システムの中でどのように利活用するのか、ではなく、ロボットと共存する社会を世界初で創造するものを生み出すことができるかどうか重要である。

### (3) 基調講演1 「食による予防医学と『機能性おやつ』プロジェクト」について

矢澤 一良 氏 (早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所

ヘルスフード科学部門 研究院教授)

- ・ 認知症とロコモティブシンドローム(運動器症候群)には関連性があり、ロコモティブシンドローム

の防止は認知症の予防にも繋がる。

- ・ 予防医学の考えに基づき、食事によって健康増進をすることが重要である。食事による健康増進を実現するには、食べた際の感情や食べるタイミングなども考慮する必要がある。

#### (4) 基調講演2 「高齢社会における栄養の役割～健康寿命の延伸にむけて～」

津田 謹輔 氏 (帝塚山学院大学 学長)

- ・ 平均寿命は上昇を続けているが、自立した生活を送れる指標である健康寿命とは 15 年ほどの乖離がある。今後の超高齢社会においては、健康寿命を延伸することが重要である。
- ・ 健康寿命の延伸には、認知症、生活習慣病、老年性症候群(フレイル・サルコペニア)の防止が必要となる。これらの疾患に陥らないためには、適度な運動と適切な食事が肝要となる。

### 5. 第 2 部 報告リレープレゼンテーションにおける主な報告内容・意見

- ・ 社会保障に頼らずに健康寿命を伸ばす取組みは重要である。このテーマで地域づくりを目指す泉大津市におけるインフラ整備や社会実装の応援をしたい。
- ・ 発展途上国の健康問題は重大な局面にあり、日本の知見・技術にはその解決に大きく貢献するポテンシャルを持っている。健康問題への取組みは、国際貢献を果たすと同時にビジネスの拡大も叶えることができる。
- ・ ウェルネス産業は「健康状態に気づく」、「健康状態を変える」、「健康状態を維持する」という 3 つのステージが連携することがポイントとなる。泉大津市のアビリティタウンには、パッケージモデルを体現する場となって欲しい。
- ・ 今後の世界的なテクノロジー改革を推進するには、二国間連携ではなく、多国間連携を行える場が必要であり、関西の泉大津市がその場となることを期待したい。
- ・ 日本ではベンチャー企業に厳しい環境が多い中、泉大津市が目指す市民による実証実験を行える環境は、事業者にとって望ましい。
- ・ アビリティ実証都市研究会を通して、新商品の研究開発やテストマーケティングを実施したい。

以上